

1 体育科における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

(1) 運動分野

① 指導内容の明確化「技能」の捉え方や考え方の整理

- ・ 運動を通して、各領域の特性や魅力に応じた楽しさや喜びを味わわせる授業
 - 競争性を取り入れるなど、生徒の興味が湧く学習活動や指導方法を工夫すること。
- ・ 体の動かし方や運動の行い方の指導
 - 開脚前転のように技を教えるのではなく、マットに順々に接触させて回転するための動き方や回転力を高めるための動き方を指導し、滑らかに回れるようにすること。
 - 体の動かし方や運動の行い方についての指導法、練習方法、仲間との関わり方等の工夫をすること。
- ・ 「動きの様相」を具体化した評価規準の作成
 - 十分満足できる動きとおおむね満足できる動きの違い等を、指導者自身が言語化して評価規準を作成すること。
 - 動きのイメージを生徒と共有すること。(例:滑らかな回転とはどのような動きなのか)

② ねらいや指導内容を踏まえた学習活動や指導法等の工夫

- ・ 態度の具体的な学習活動と指導の工夫
 - 態度の学習場面をどの程度位置付けるのか、具体的に何をさせるのか明確にすること。

(指導例) 柔道における伝統的な行動の仕方

- ・ 柔道場や体育館への入場、退場時は、立礼、または、座礼を行い、履物を揃えることができるようにする。
- ・ 自由練習や試合の攻防及びその前後は、特に留意して生徒の行動や態度、礼法を確認する。

- ・ 思考・判断の具体的な学習活動や指導の工夫

- 生徒が思考・判断するための基となる知識や技能を指導すること。

③ 指導と評価を一体化させた学習指導

- ・ 「技能」「態度」「知識、思考・判断」のバランスのよい指導を前提とすること。
- ・ 指導内容が明確になっていることが効果的・効率的な評価につながる。
- ・ 生徒の学びの姿を想定し、活用可能で実効性のある評価規準を設定すること。
- ・ 各観点の学習状況を評価する上で、教師が無理なく生徒の学習状況を的確に評価できる評価方法であったか振り返ること。
- ・ 指導者の指導の改善、評価方法の改善に生かすこと。
- ・ 「運動への関心・意欲・態度」「運動の技能」の二つの観点における評価は、態度の育成や技能の獲得等には一定の学習機会が必要となるため、指導後に一定の期間を設け適切な時期に評価機会を設定すること。
- ・ 「運動についての知識・理解」「運動についての思考・判断」の二つの観点における評価は、指導から期間を置かずに評価すること。

(2) 保健分野

① 新たな健康課題

- ・ メンタルヘルスに関する課題：精神疾患、自殺など
- ・ 性に関する課題：少子化、晩婚化、間違った性情報など
- ・ 防災に関する課題
- ・ 環境に関する課題：PM2.5、放射能など
- ・ 新たな感染症：新型インフルエンザ、風疹、結核など
- ・ がん（子宮頸がんを含む）

保健で指導する
内容は何かを明確
にする。

中学校 保健体育科

② 指導と評価について

- 単元の目標は、「知識・理解」「思考・判断」「関心・意欲・態度」の三つに分けて示すこととし、評価についても3観点で評価する。
- ※ 内容にある「理解」は、健康・安全への「知識・理解」だけではなく、健康・安全についての「関心・意欲・態度」や「思考・判断」などの資質や能力を含むため。
- 評価規準を設定する際の留意点

評価規準	留意点
単元の評価規準	・「評価規準の設定例」を活用して観点ごとに作成する。
学習活動に即した評価規準	・「評価規準の設定例」を参考に、授業をイメージして観点ごとに作成する。 ・「単元の評価規準」との整合性をとるようにする。

※ 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」【中学校保健体育】(国立教育政策研究所 H23.11)を参照にする。

③ 知識を活用する学習活動の工夫について

- 健康に関する資料等で調べたことを基に課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明する活動を取り入れること。
- 学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明する活動を取り入れること。
- エイズ及び性感染症の増加傾向とその低年齢化について学習する際、感染症や予防についての知識を活用し、現在の生活に当てはめて考えさせるようにすること。

2 運動部活動の適切な指導と運営

(1) 体罰の根絶を目指して

- ① 「体罰の禁止及び児童生徒理解に基づく指導の徹底について(通知)」
(25文科初第1269号 平成25年3月13日)の周知

部活動の意義をもう一度確認するとともに、体罰を厳しい指導として正当化することは誤りであるという認識を持ち、部活動の指導に当たる教員等は、生徒の心身の健全な育成に資するよう生徒の健康状態の十分な把握や、望ましい人間関係の構想に留意し適切に部活動指導をすることが必要です。

- ② 「運動部活動での指導の充実のために必要と考えられる7つの事項」

(「運動部活動での指導のガイドライン」より)

- 顧問の教員だけに運営、指導を任せるのではなく、学校組織全体で運動部活動の目標、指導の在り方を考えましょう
 - 各学校、運動部活動ごとに適切な指導体制を整えましょう
 - 活動における指導の目標や内容を明確にした計画を策定しましょう
 - 適切な指導方法、コミュニケーションの充実等により、生徒の意欲や自主的、自発的な活動を促しましょう
 - 肉体的、精神的な負荷や厳しい指導と体罰等の許されない指導とをしっかりと区別しましょう
 - 最新の研究成果等を踏まえた科学的な指導内容、方法を積極的に取り入れましょう
 - 多様な面で指導力を発揮できるよう、継続的に資質能力の向上を図りましょう
- ③ 学習指導要領の趣旨を踏まえた運動部の活動(部活動の意義と留意点)
- 「中学校学習指導要領解説 保健体育編 P170～P172」
 - 「高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 P128～P129」